

特集：ICT を活用した教育の質保証

教学 IR の役割と実践事例

——エビデンスベースの教育質保証をめざして——

松田 岳士*

The Role and Practice of IR

—Toward the Evidence-Based Quality Assurance in Higher Education—

Takeshi MATSUDA*

In this paper, the relationship between quality assurance in higher education and institutional research or IR is discussed mainly from the technological perspective. Among many roles in IR, education and learning are emphasized and precede the activation of other areas in Japan. To support quality data research and to enhance appropriate report to stakeholder, IR system can contribute in data gathering, analysis and dashboard design. It would be critical for higher education institutions to develop tools that can communicate essential information including KPI to targeted stakeholders in an easy-to-understand format. Professional development and creation of dummy data set will be needed to advocate the further growth of IR.

キーワード：教育質保証，教学 IR，KPI，ダッシュボード，Estimator

1. はじめに

本稿は、高等教育における教育質保証において IR (Institutional Research) が果たす役割や課題を、教育・学習に関するデータを扱う「教学 IR」およびそのシステムに焦点を当てて、事例を紹介しつつ解説するものである。そもそも IR には「当該機関 (Institution) の機関および機関構成員による何らかの調査研究 (Research) を指す」⁽¹⁾ という広い定義から「教育、経営、財務情報を含む大学内部のさまざまなデータの入手や分析と管理、戦略計画の策定、大学の教育プログラムのレビューと点検など包括的な内容」⁽²⁾ という具体的な定義まで、さまざまな定義が存在する。

したがって、本稿の内容を IR 全般に広げると本学会論文誌において紹介する意義があいまいになってしまうおそれがある。そこで、本稿では、IR の歴史、担当組織や経営に与える影響に関する議論、中央教育審議会の動向や行政から高等教育機関への働きかけな

どは最低限必要な記述にとどめ、テクノロジーが貢献できる分野を中心に述べる。

本稿では、まず、高等教育における教育の質保証と教学 IR の関係を整理する。これを通して、日本で IR のうち教学分野の IR が注目されている事情や、IR 先進地域である北米の IR と日本の教学 IR の役割の類似点、相違点を解説する。次に、教学 IR のシステムで扱うデータを軸に、データの収集、分析（特に導出する指標）、インタフェース（特にダッシュボード）に注目して、調査結果やシステムを紹介する。最後に、Estimator を例に教学 IR の方向性と課題をまとめる。

2. 教育の質保証と IR

高等教育における教育の質保証の枠組みは一通りではなく、目的から見ても、粒度（対象・活動のサイズ）から見ても、多種多様なフレームワークに基づいた活動が展開されている。例えば、個々の授業の満足度評

* 島根大学教育・学生支援機構教学企画 IR 室 (Institutional Research Office for Educational Planning, Shimane University)